



平成 30 年度学校評価の結果

1 主な指標の変化

- ① 全保護者による調査の結果、「子どもは幼稚園が好き」という幼児は良くあてはまる、やや当てはまるを含めると98%である。幼稚園生活を楽しく過ごせていた様子が良くわかる。
- ② 「先生に子供のことについて相談できる」についての項目が100%の親が相談できるようになった。学期に1回取り組んでいる教育相談や困ったことにはその都度相談できる職員体制が成果をみせてきたようである
- ③ 「幼稚園の情報をわかりやすく伝えているか」の項目のよくあてはまるが92%になった。ホームページや写真等で園児の生活の様子をその日のうちに知らせた成果と伺える。

2 幼稚園教育目標の具現化に向けた指標

- ① 『健康で明るい子』広い園庭を生かした遊びや砂遊び等が自主的に取り組める環境構成や遊具の遊び方を工夫したことにより、外遊び大好き子が育ち、健康で元気な幼児が増えた。サッカーあそびは保護者を巻き込んで実施したことにより体を動かして遊ぶ楽しさが親子の中に浸透した。縄跳びや竹馬のりはほとんどの子供が達成感を持って自信へと繋がり保護者への期待にも応える結果になった。
- ② 『きまりを守る子』「幼稚園生活の中で安全な遊び方ができることや合図を守る」を重視してきた結果、怪我や大きな事故なく過ごすことができた。また「幼稚園では幼児に対する安全に関する適切な指導が行われている」100%になった。
- ③ 『仲良く遊べる子』ルールのある戸外遊びやごっこ遊びを充実させる環境構成に工夫を盛り込んだことで、友だちと協力してグループ遊びをする姿が多く見られるようになった。その結果「子どもは好きな友だちがいる」の項目は100%となった。

3 次年度へ向けての展望

- ① 「子どもは自分の思っていることを先生や友だちに話せる」という項目については、昨年度より割合は20%近く上がっているが他の評価項目に比べるとやや数値が低い。生活の中で発表活動の場を増やすことや、保護者へ幼児と教師との関係性を伝える工夫をする必要がある。今後も『話す・聞く』の指標が上がるための保育内容や指導法の検討を進めていきたいと考える。
- ② 幼児期の教育から小学校教育への滑らかな接続のための交流活動は昨年度より進んでいるので今後も引き続き努力していきたい。
- ③ 幼稚園評価の結果をふまえ、幼稚園運営並びに教育活動の推進を図っていききたい。

